

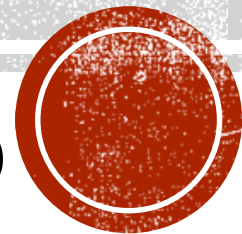
# 『古事記』と 『日本書紀』の相違

メンバー：坂口 (E-3)

花本 (E-3)

安井 (E-3)

高岡 (S-3)



# 【目次】

- 研究目的・研究内容
- 『古事記』・『日本書紀』 主な概要
- 相違部分の考察
  - ・ 天地開闢
  - ・ 神の名前の相違
  - ・ 国生み
  - ・ イザナミ
- 先行研究における本文の相違部分
- 結論



# 【研究目的】

先行研究では、『古事記』と『日本書紀』の違いを製作背景から考察したものが多く、本文の内容から考察したものが少なかった。



そこで、我々は『古事記』と『日本書紀』の本文の内容について触れ、より深く違いを探求する。



# 【研究内容】

『古事記』と『日本書記』は同じような内容を記したもので、成立にわずか8年の差しか存在しないにも関わらず、いくつもの相違点が存在する。

『古事記』と『日本書紀』の内容としては創作された物語である神話部分（神代）と事実に基づいて記されている天皇の時代（人代）に分けることができる。今回この二つの文献を比較するに当たって、神代の部分について比較していく。



# 【神代部分を比較する理由】

『古事記』と『日本書記』が製作時に何らかの影  
響を受けることで相違が生まれたと仮定する  
と、歴史上の事実である人代の時代に製作者の  
意図を反映させるのは難しいと考えられる。そ  
のため、創作部分である神代であれば思想など  
を反映しやすく、色濃く違いが出てくると思わ  
れるため。



# 『古事記』と『日本書紀』の主な概要

	古事記	日本書紀
成立年	712年（和銅5年）	720年（養老4年）
執筆者	太安万侶(おおのやすまろ)	舎人親王(とねりしんのう) 他数名
製作に用いられた史料	帝紀、旧辞	帝紀、旧辞、古事記、風土記（ふどき） 百濟（くだら） 個人の手記
主な内容	天地開闢～33代推古天皇	天地開闢～41代持統天皇

# 【神代部分における構成の違い】

『古事記』は1つのストーリーとして本文が作られている。それに対して『日本書紀』は一説にはこう伝わっておりまた一説にはこう伝わっていると言うように幾つもの説を併記している。今回は本文について比較していく。

例

	古事記	日本書紀
天地開闢	1説	7説（併記）
国生み	1説	6説（併記）
神生み	1説	10説（併記）



# 【神代の比較する部分】

✓ 天地開闢

✓ 神の名前

✓ 国生みの順番

✓ イザナミの黄泉の国における表現





# 【天地開闢における相違】

## 古事記

高天原と言う場所が元々存在していて、そこに天之御中主神（あめのみなかぬしのかみ）、高御産巢日神（たかみむすひのかみ）、神産巢日神（かむむすひのかみ）、と呼ばれる三柱の神が成り出でたとされる。

## 日本書紀

昔、天地はまだ隔たれておらず陰陽もまだ存在していなかったとき、その何もない空間から天地が分離しその後、天に国常立尊（くにのとこたちのみこと）、国狭槌尊（くにのさつちのみこと）、豊斟淳尊（とよくむぬのみこと）の三神が成り出でたとされる。

※高天原と言う表現は少ない



## 【考察】

『古事記』・・・高天原が最初から存在していたと記されている。この高天原と言う表現は日本独自の表現である。これはあくまで『古事記』が日本国内向けの歴史書であり、今までの日本の神話をそのまま反映したためと思われる。

『日本書紀』・・・天地開闢では何もかもが混沌としていた空間より天と地が生まれたと記されている。この表現もとい思想は中国神話や、ギリシャ神話と酷似していることから、日本国外における神話の思想が大きく影響していると思われる。



# 【神の名前における「命」と「尊」の違い】

## 古事記

日本では神からの命令は、命を賭けて果たすべきものである。故に「○○命」と書いて「○○のみこと」と読むという尊称が発生したものであると思われる。これは、和風の書き方なので『古事記』では【命】のみ使われていたものである。

### 《例》

最初は「伊弉諾神、伊弉冉神」と書かれていたが、天の命を受けた後「伊弉諾命、伊弉冉命」と書かれていた。これは、上記によるものであると考えられる。

## 日本書紀

『日本書紀』ではいたって尊いお方には【尊】それ以外には【命】と使い分けている。また、『日本書紀』では【命】という表記が少なく、それは『古事記』で記述した通り【命】と書いて「○○のみこと」と読ませる尊称は日本で生まれとされるので、【尊】を多用して外国の人にわかりやすくしたものである。

# 【国生みの順番】

## 『古事記』

①淡路島（淡路之穂之狭別島）

②四国（伊予之二名島）

③隠岐島（隠伎野三子島）

④九州（筑紫島）

⑤壱岐島（伊伎島）

⑥対馬（津島）

⑦佐渡島（佐渡島）

⑧本州（大倭豊秋津島）

## 『日本書紀』

①本州（豊秋津洲）

②四国（伊予二名洲）

③九州（筑紫洲）

④壱岐島（壱岐洲）

⑤佐渡島（佐渡洲）

⑥北陸道（越洲）

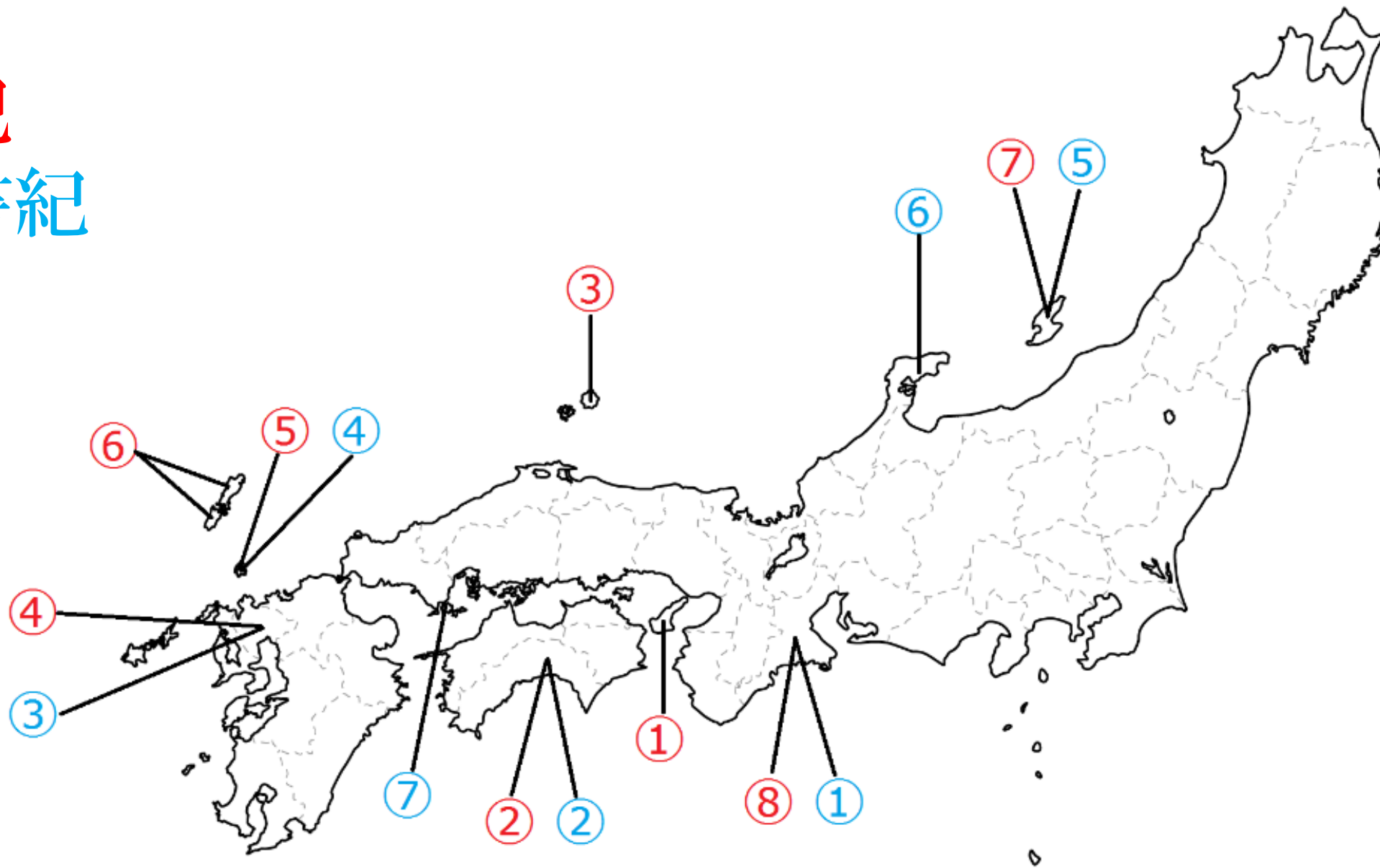
⑦屋代島（大洲）



# 【地図から見る国生みの順番】

古事記

日本書紀



# 【国生みの順番について】

国生みはイザナギを信仰していた淡路島を中心として描かれている。また、その後の国生みの順番については日本海航路を示しており、国生みに出てくる国は権力の範囲を示していると考えられる。

『古事記』と『日本書紀』の国生みの順番には違いがあるものの、調べた結果その違いに大きな意味は無かったという結論に至った。



# 【イザナミの黄泉の国における相違】

## 古事記

イザナミの死後イザナミは「蛆（うじ）たかれころきて」というように、蛆虫が体にたかっているという残酷な表現が用いられている。

## 日本書紀

日本書紀では、異説の中には古事記の内容に酷似した「膿（うみ）沸（わ）き虫（うじ）流（たか）る」という表現が使われているが、本文では「共に語る」という表現で済まされている。

## 【考察】

これは『**日本書紀**』の本文では、イザナミは天皇の古い祖先にあたる。日本の頂点に君臨する天皇の祖先に対し「膿（うみ）沸（わ）き虫（うじ）流（たか）る」という残酷な表現を使うことは天皇の威厳を貶めかねないため、本文には「共に語る」という表現を用いたものと思われる。



# 【先行研究による神話部分の主な違い】

	古事記	日本書紀(本文)
天地と神の発現	初めから高天原が存在し、そこに神が現れ、その働きで地上が出来る	何もない混沌より天地が分離し、その中に神が現れる
創世の原動力	高天原にいる天神の命令による	陰陽の作用で自発的に行われる
天上	天神の世界高天原が地上世界を統べる	天つ国はあるが、地上とは対等的（高天原と云う言葉はない）
天照大神	高天原の主宰者	単なる日神
地下	黄泉国あり	黄泉国なし
イザナミ	死んで黄泉国へ行く	死なない
地上（葦原中国）への高天原の主権	始源的に定まっておき、統治権は保証されている	譲渡を迫ることにより獲得
天孫降臨の企画	タカミムスビと天照大神の共同企画	タカミムスビ（ここで初出）で天照大神ではない
あえて言えば	伝統的（縄文的）	中国的（道教的）



## 【結論】

『古事記』と『日本書紀』の神代部分を比較した結果、一般的な考え方であり先行研究でも述べられているように、『古事記』は日本国内向けの古来の伝統を重んじた歴史書であり、『日本書紀』は中国を意識した、外国向けの日本の史書であるという結論に至った。

研究を進めた結果、「紀」というのは歴史書、「記」というのは物語という意味をもつとされており、そもそも『古事記』と『日本書紀』では作られた意図が根本的に違うものであるという結果にたどり着いた。



# 【参考文献】

- ◆伊藤ユキ子（2004）『古事記の原風景：神々が宿る悠久の大地』学研
- ◆次田真幸（1977～1984）『古事記 全訳注 （上）』講談社学術文庫
- ◆中村啓信、菅野雅雄（1978）『日本神話』桜楓社
- ◆三浦佑之（2010）『古事記を読みなおす』（ちくま書店）
- ◆水野祐（1996）『日本神話を見直す』学生社
- ◆『古事記と日本書紀はどう違うか』（2008）  
<<http://www.k4.dion.ne.jp/~nobk/other/kiki.htm>>
- ◆『古事記と日本書紀との違い』  
<http://www.nikonstunninggallery.com>
- ◆『日本書紀 卷第一』  
<http://www1.bbq.jp/shinsisyuppan/nihonsyoki2.htm>

